

日本大学三島高等学校 同窓会会報

第 31 号

平成14年3月2日
静岡県三島市文教町2
日大三島高校同窓会 発行



“人間万事 塞翁馬”

会長 高田菊平

第1期生・ニューデルタ工業株社長
(三島市梅名)

会員の皆様におかれましては、お元気にご活躍のことと思います。日頃は同窓会活動に御理解と御支援を賜わり厚く御礼申し上げます。今後共よろしくお願ひ申し上げます。

21世紀が始まって早くも一年が過ぎ、新しい世紀に新しい時代が始まると期待をしたものの、何と苦しい世紀の始まりになってしまったことでしょう。

今どちらを向いても良い話はありません。昨年は、大変な激動の年で、政治にしても、経済にしても、それが日本だけでなく世界的な事として表れた年がありました。

バブルの崩壊以後、それぞれの産業が直面したいいろいろな試練が、いまだに尾を引きさらに拍車をかけるように、景気の低迷、デフレスパイラルと云われる状態になって、大手企業の倒産や、リストラ、吸収合併、廃業etcが、毎日のように新聞、テレビで報道されています。

私達はこの厳しい現実の中に身をおいていますが、この時代をのりきっていく為には、どうすればいいのでしょうか？

今、物づくりの産業は大変な試練をむかえています。“中国は世界の工場”といわれるようになっています現

代、資金と人材がある企業は、国内生産の空洞化も容認し、生産の拠点を中国へと移し、グローバルな事業展開を積極的に進めて、世界の市場における戦いをしています。

しかし、中小企業の多くはここまで投資することができず、自らその道をあきらめざるをえない会社も多く出ています。

今年早々の著名な企業経営者が年頭の所感で、異口同音に話しておりますことは、この時代は、顧客ニーズに応えるソフトとハードの開発こそ、生きのこる道であると云っています。今、物はみちあふれています。そんな中では新しいソフト・ハードの開発がさらに重要になり、新しい市場開拓が求められています。多品種少量であっても、それを開発して、供給できるそんなニッチなマーケットに対して、果敢に挑戦できる企業が、ものづくりの空洞化現象下で生きしていくことができるのではないかと思っています。

こんな時代だからこそ、マイナスをプラス思考で、物事を転換することが本当に大切なことだとつくづく感じています。

今世の中をみると常に変転しています。禍ありと思えば福あり、吉と思えば凶あり、不幸と思えば幸あり…と本当に定まりなく変転しています。だからそれらにあまりにも一喜一憂していてはなりません。常に平然として心動かすなれ、自らを見失うことなく、しっかりと構えていかなくてはならない。こんな時代のそんな心がまえを“人間万事塞翁馬”という中国の故事がおしえてくれています。今年は午年、大いにかけめぐりたいものです。

平成14年1月24日



PIONEERS ～切り拓こう、僕らの未来～



三島サンバ(2年生)



さらなる 前進を 目指して

校長 佐々木久信

同窓会の皆様には、日頃から本校の教育活動に深いご理解とご支援をいただておりますこと誠にありがとうございます。

昨年は新世紀の第一年目でしたが、平和と恵みに満ちた素晴らしい時代になるとの期待に反して、国外では9月11日のニューヨーク世界貿易センターへのテロ事件、アフガニスタンのタリバン政権への軍事攻撃、国内では成人式での新成人の反乱、池田小学校での大量児童殺傷事件、不良債権の肥大化をはじめとする日本経済の深刻な不況等々、この世紀が解決しなければならない困難な未来を暗示するスタートとなりました。

幸い、本校では本年度約790名余の生徒が三年間の勉学を無事終了し、卒業を迎えることが出来ました。4月から夫々の新しい進路に向かって力強く歩み始め、実りある人生を送ってくれるであろうと期待しております。しかし、何分にも現代は不透明な混沌とした時代であり

ます。卒業生は大いなる可能性を秘めているものの、経験も力量も決して十分なものではありません。彼らが4万3000人を超えて、様々な分野で広く活動しておられる伝統ある同窓会の一員に加えさせていただくことが出来ることは大変有難い事です。是非、末永く温かいご指導とご支援をお寄せくださるようお願い申しあげます。

さて、前年の会報30号でご報告した通り、現代日本の教育改革の必要性は益々増大しつつあります。静岡県の入試関連だけでも平成15年から大きな変化を迎えることになります。第1は、今まで生徒の成績は相対評価という客観的なものさしで行なっておりましたが、到達水準によって評価する絶対評価になります。中学の学校差による混乱が懸念されます。第2に公立高校の入試が前期日程と後期日程にわかれ、公立を二校併願することが可能となります。受験生が上位校と下位校への二極分化することが予想されます。第3に学区が規制緩和されて、隣接学区の受験が容易になることです。いずれにしても、本校だけでなく私学全体にとって長年築き上げてきた入試方法の根本的見直しを余儀なくされることになるでしょう。

今後も教職員一同力を合わせて伝統を守りながら必要な改革をすすめ、県東部のトップ校を目指して努力していく所存であります。何卒同窓会の皆様の絶大なご支援をお願いする次第であります。

平成14年1月15日(火)

平成13年度 事業報告

1 総 会 13年10月26日(金) 田代パレス

- (1) 高田菊平会長挨拶
- (2) 校長 佐々木久信先生挨拶
- (3) 国際関係学部事務局長 原山 清先生挨拶
- (4) 議事（事業報告・決算報告・役員改選・事業計画・予算案 その他）
- (5) 懇親会

2 幹 事 会

- (1) 10月15日 母校14号館 3F小会議室
総会について
- (2) 2月2日 母校14号館 3F小会議室
入会式・会報発行について

3 事 業

- (1) 2月23日 第42期生入会式 母校8号館
表彰（奨学金）金窪太郎・戎谷健久
記念講演
講師 女優 正 司 歌 江
「人と人、心と心のふれあい大切に」
- (2) 3月2日 同窓会会報 第31号発行

4 支 部

- (1) 静岡（静桜倶楽部）平成13年5月11日
静岡駅前 ブケ東海

5 そ の 他

- (1) 工業科電気 平成13年3月17日 菊水荘
- (2) 第二期卒業生の会 平成13年8月25日
三島プラザホテル
- (3) 昭和42年度卒業生同窓会 平成13年9月8日
(第8期) 三島プラザホテル

新入会員を迎える



同窓生としてお慶びください

竹中朝崇
(28期)

3年生の皆さん、卒業おめでとう。私は教員として3年間皆さんと行動をともにしてきましたが、着実に成長し、無事、卒業式を迎えることをうれしく思います。

私はこの3年間に結婚・長男の誕生と生活が大きく変わりました。先日、子どもが1歳の誕生日を迎え、成長の早さに驚きつつ、日々子育ての大変さの中、喜びを感じています。我が子が1番という親バカぶりはどうしようもありません。その中でこの社会の大きな変化に不安を持っています。我が子のこととともに皆さんの先にあるもの何でしょうか。

価値観が多様化した現在、皆さんにはお互いの考え方を認め合うことのできる成熟した社会がより求められると思います。その役割を担うためには、もっと「自分」をよく知り、物事をよく考えて行動することが要求されるでしょう。若さにまかせて、時に失敗を恐れないチャレンジも必要ですが、「大人」になって欲しいものです。

最後にたまには母校を訪ねて下さい。同窓生となった皆さんをいつでも温かくお迎えすることを約束します。

入会の言葉



再会を願つて

渡部達也
(42期生代表)

私たち平成13年度卒業生一同は、第42期日大三島高校同窓生として、同窓会に入会させて頂ける事となりました。長い歴史を持ったこの会に入れる事を大変うれしく思います。

私達は、この3年間で多くの事を学びました。それも友人がいてこそものだったのではないか。時には笑い、時には喧嘩し、時には泣き…そんな支えあえる仲間がいたから桜陵祭、部活、受験などいろいろな障害を乗り越えてこられたと私は思っています。

同窓会は、友人との再会の機会であると共に同じ学校の下で学んだ先輩方との交流の場であります。このような入会の機会を頂ける事を幸せに思い、大切にしていきます。日大三島高校の名に恥じないような同窓生となるよう努力していきたいと思いますので、どうかご指導のほどよろしくお願ひ致します。

各支部長一覧

支部名	三島	田方	沼津	御殿場	富士	富士宮	静岡	熱海	小田原
氏名	永井嘉大	内田敏明	今井信之	高杉忠	西村雅幸	秋山一雅	松田允	谷口俊司	川口功一
住所	駿東郡長泉町納米里一〇四十三	田方郡大仁町吉田八三九十四	沼津市市場町一〇一一	駿東郡小山町古城四四	富士市横割六一二二五	富士宮市浅間町四一一五	静岡市中田一一三一一一	熱海市上多賀九二〇一	小田原市東町四五二〇
TEL	(〇五五)九八七一七三七〇	(〇五五八)七六一一三三三七	(〇五五)九三一一七八七八	(〇五五)七六一一三四八四	(〇五四五)六一一五一七五	(〇五四四)二六一一三八四七	(〇五四)二八五一五八三八	(〇五五七)六八一四〇二二	(〇四六五)三四一三五三七

クラス幹事

以下の人たちが各クラス幹事として選ばされました。

将来、同窓会を開くときなどは、下記の幹事を中心として連絡をとり合ってください。

- | | | | |
|-----|------|-----|-------|
| 1組 | 植松智 | 12組 | 海老克彦 |
| 2組 | 山田恵理 | 13組 | 森信幸志 |
| 3組 | 林陽介 | 14組 | 白井洋達 |
| 4組 | 市川諭 | 15組 | 渡邊智也 |
| 5組 | 飯塚真規 | 16組 | 渡邊康文 |
| 6組 | 渡邊裕予 | 17組 | 伊藤智 |
| 7組 | 杉山肇 | 18組 | 伊賀上佳実 |
| 8組 | 野入久典 | 19組 | 下村祐司 |
| 9組 | 小沢侑介 | 20組 | 田中健裕 |
| 10組 | 向尾崇 | 21組 | 鈴木雄介 |
| 11組 | 植島純司 | | |

同窓会総会

平成13年10月26日(金)
於：田代パレス

日本大学三島高等学校同窓会



恒例となっている年に一度の総会が、平成13年10月26日に、にぎやかに開催された。高田菊平会長の挨拶に引き続き、母校校長の佐々木久信先生と、国際関係学部事務局長の原山清先生からもご挨拶があった。その後定められた議事がスムーズにこなされ、懇親会に入った。年に一度とはいえば、いつもの顔が集まり意義深く楽しい時を過ごすことができた。同窓生の和はいつの時代にも大切なものである。ぜひとも新たな同窓生の参加を期待するところである。お互いに声をかけ合って今年の10月にまた会いましょう。

同窓会入会式

平成14年2月23日(土)

日本大学三島高等学校同窓会 第42期生入会式



久保田副会長挨拶



表彰



講演会風景

記念講演会

講師

女優 正司 江

テーマ

「人と人、心と心の
ふれあい大切に」

恒例となっている同窓会入会式が母校8号館でおこなわれた(左写真)。この式において、同窓会は表彰規定にもとづき、金澤太郎君と戎谷健久君に奨学金(5万円ずつ)をおくりました。この奨学金は、母校在学中、学業成績・人物・自治活動・健康にすぐれ、有為な人物として学校長より推薦された人におくるものです。

糟谷邦雄先生 定年によって退職される



糟谷邦雄先生は、平成13年12月6日付をもって定年退職をされました。先生は、昭和38年4月に日本大学三島高等学校に赴任されました。担当教科は理科で、物理を担当されました。先生は常に若々しく、部活の顧問としても主としてバドミントン同窓会を指導されました。放課後は生徒達と一緒にラケットを振っておられました。先生の新たな人生に、幸多いことを同窓生一同心よりお祈り申し上げます。

昭和36年度

2期生同期会ひらく



卒業して40星霜、第2期生が集まつた。決して珍しいことではない。以前より凡そ3年置きに会を開く約束があったからである。これは何時も全員が集まるものでないことから、継続してこそ都合のよい時に誰もが出席できる態勢をつくっておくことが、親切であると思うからである。ともあれ母校は懐かしく何回ともなく集まつて、たわいのない思い出話しに一時を過ごすことこそ同級生・同窓生であるように思う。

今回、話題になったのは、「健康第一」「元気でいよう」が異口同音に聞かれ、これも年齢が云わせたことかと思う。当日は私たち50余名に、谷口、白井、高杉、中神、花野井、西島の各先生のご出席をいただき、うれしい再会となりました。

聞きますと、今年の卒業生は42期生のこと。40年の年齢差であり孫に近い後輩である。なんとも云えぬよろこびが湧き、益々母校の発展を願うものである。

昭和42年度(第8期) 卒業生同窓会開催

開催事務局 大庭慎一郎



平成13年9月8日(土)三島プラザホテルで、清好一・石川渥之・市川紀子の各先生方のご臨席を賜り、第8期同窓会を開催しました。佐藤さんの開会の辞、石橋君の発起人代表挨拶に続き、各先生方のご挨拶、乾杯と進みました。その後国府方君の司会でクラス毎に自己紹介が行われ、卒業して33年、50歳を過ぎ働き盛りの私達の近況報告や自社PR、異業種交流等の情報交換の場となりました。話も弾み、旧交を温め、大いに親睦を深めることができました。同窓生の会話から日大三島高校の卒業生としての自覚と、母校のますますの発展に寄与したいという気持ちを強く感じました。最後に次回の開催を約束しつつ終了しました。この会を開催するにあたり、お世話になった高田同窓会長と事務局の渡辺博夫先生に深く感謝申し上げます。

富士市長に5期生鈴木尚氏当選

昨年12月23日、任期満了に伴う富士市長選挙が行なわれ、本校5期卒業の鈴木尚氏が現職を破り当選した。鈴木氏は市議1期、県議4期の実績をもつての当選であり、就任して「市民との対話を重視した市民本位の政治」を貫きたいとの所信を表明、その手腕が大いに期待されるところである。

訃報

ながきにわたり、御殿場支部長を務められ、同窓会発展のために尽力された、武藤康徳氏(第1期)が、平成13年2月に亡くなられました。氏のご冥福を同窓生一同心よりお祈り申し上げます。

